

近隣教会のご紹介

番外編

学校法人緑ヶ丘学院
緑ヶ丘女子中学校・
高等学校

キリスト教主義学校紹介

横須賀市緑ヶ丘。繁華街に近いながら、名前の通りの緑豊かな丘陵に、横須賀・三浦地区で唯一の女子中学・高校が建っています。開学は衣笠病院の創立と同じ1947年（昭和22年）。戦後の新日本建設のため、さらなる女子教育の必要を感じていた地域の著名人や教育者が、横須賀米海軍基地司令官B.デッカーと相談を重ね開設した学院でした。横須賀基督教社会館の創設者E.トムソン宣教師が2代目の理事長を務めるなど、多くのキリスト教指導者が関わり、今日まで「至誠一貫」・「温雅礼節」（建学の精神）下で、教育活動を行ってきました。

「世界を見ると、先進的な組織運営には必ず女性の感性や発想が求められます。これからは、学院生活でも、ただ楽しいということではなく、卒業後の将来を見定め、自分で



キャリアを築くための力を習得することが大切になるでしょう。偏差値だけで測られる時代は間もなく終わりますから」—そう語られるのは平田幸夫校長。5年前に就任されるまでは、口腔衛生学・社会歯科学の権威として、神奈川歯科大学の学長を務めておられました。その知見は、本年度から高校の「特進コース」の中に新設された「看護医療コース」にも十分に生かされています。



これからの教育について熱く語られる平田校長

「聖書の授業でも、暗記に終わらず、例えばいのちのことなど、一緒に考えることを大切にします」と、宗教科担当の横溝健正牧師。「生きる力」—それを育む丁寧な関りが、75年の歴史を経て今も、この地域に有為の人材を輩出し続けています。

（衣笠病院グループチャプレン 大野 高志）

- 理事長 大田 順子
- 学校長 平田 幸夫
- 宗教科主任 荒古さとみ

所在地：横須賀市緑ヶ丘 39 TEL：046-822-1651

今月の聖句

緑ヶ丘女子
中学校・高等学校 宗教科
湯河原教会牧師 金子 信一

「横須賀通いも
楽しいよ」

「わたしたちは見えるものではなく見えないものに目を注ぎます。見える者は過ぎ去りますが、見えないものは永遠に存続するからです。」

コリントの信徒への手紙 二 4章18節



横須賀駅に降り立ち緑ヶ丘学院まで約10分、週2回ではあるが歩くことが今の私の健康維持の運動である。もちろん自宅から湯河原駅までの坂道を下って登ってということも含めてであるが、ただ歩くだけでなくヴェルニー公園のバラを見ながら木道を歩きながら眺める景色、現在建造中の基地内の栈橋、いつごろ完成するのか、完成したらどんな船がそこに着岸するのだろうか、今日港にはどんな船が停泊しているのだろうか、南極へ行く「しらせ」の姿を見ると、隊員たちはどんな思いで船に乗り込むのだろうか、潜水艦の出航のセレモニーがよく行われていて、タグボートが小気味よく作業しているさまや隊員たちの整列風景、群衆と一緒にイギリス海軍の空母「クイーンエリザベス号」が出航していく様子を眺め、修理中の艦船を見ながら、争いが多発している世界にあって日本の置かれている状況の中、軍艦何隻、空母何隻、軍備力を測るパロメーターが思い出されてしまう。横須賀港の今、活気づいてもらってもなーと思ってしまう。それにしても、今日の授業では何をしようか、中学生には、高校生にはどのようにしようかとか、聖書をどのように伝え、牧師として何を伝えたいのか自問自答しながら、緑ヶ丘へと続く階段を一步一步上りおりにしています。

世界情勢を考えながら自分の健康、聖書と向き合う自分と、生徒たちとの学び、楽しく過ごすことのできた16年。あと1年で退け時である。非常勤講師としての決まりである年齢がそう言っています。何やら、活かされて、用いられての日々、聖句に導かれ守られながらの横須賀通いでありました。電車の遅れとか、乗り換え時間を含めての約2時間の小旅行をこれからも楽しみたい。